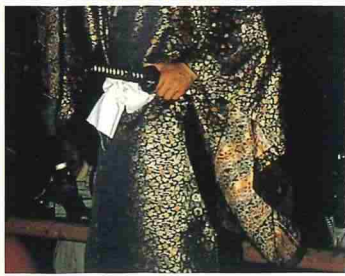
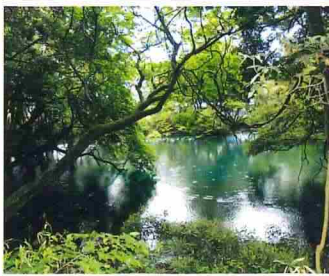
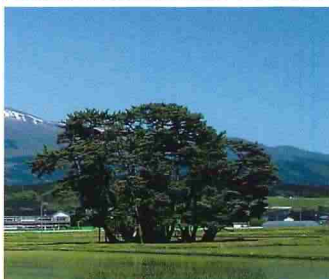
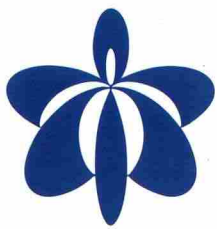


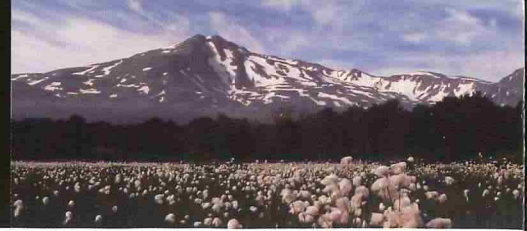
国指定史跡

鳥海山





秋田県由利本荘市



森子大物忌神社境内



森子大物忌神社境内(二ノ鳥居より)

森子大物忌神社境内は、鳥海山北麓の秋田県由利本荘市森子に位置する羽黒派滝沢修験組織の活動拠点であり、鳥海山遙拝所として大物忌神を祀る地である。縁起書によると、養老年中(717~723)に鳥海山権現を勧請して七年後に社殿を建立し、その地を八乙女山と名付けて崇敬したと伝えられる。

安政2年(1855)年に再建された社殿には、本地仏である薬師如来像を中心とする薬師三尊像と十二神将像が安置されている。大物忌神社は、江戸時代の再建棟札により、近世には「薬師堂」と呼ばれていたことが分かる。

神社は八乙女山中腹に位置し、一ノ鳥居から社殿まで、約三百段の急峻な石段が築かれている。百五十段程登った左手には神楽座跡があり、ここより上方は聖地とされ、戦後に女人禁制が解除されるまで女性が上段に登ることは許されなかった。神楽座の上段には、一間四方の石積みによる護摩壇が現存している。

石段を登りきると重厚な社殿が見え、その右前方に二代目木とされる樹齢五百年以上の大杉の神木がある。また社殿左側には「道者道」と称される鳥海山登拝道があり、これが鳥海山二合目の木境を通り、山頂の大物忌神社に至る滝沢口登拝道の起点である。

滝沢口登拝道は急峻な道である。しばらく道を登ると、道者から道銭の寄進を受けた場所「小屋掛けの松」に至る。さらに道を登り八乙女山山頂に至ると、そこには「鳥海山様」と称される鳥海山山容に似た大きな自然石が祀られている。滝沢口登拝道は、この鳥海山様を過ぎた後、東由利原高原・南由利原高原・^{おたすけ}花立を経て、木境の矢鳥口登拝道に至るものである。

境内は秋田杉に囲まれ昼でも薄暗く、修験の聖地としての雰囲気満ちている。また例大祭も4月第3日曜日に変更されたが、

古式に則って行われている。米俵十俵分と言われる重さの御輿を背負い、三百段の参道を一気に登りきる姿は勇壮である。

木境大物忌神社境内と道者道(登拝道)



木境大物忌神社



矢鳥口道者道(登拝道)

秋田県由利本荘市矢鳥町木境は、鳥海山福王寺を学頭とし、当山派修験道の祖「聖宝尊師(理源大師)」を尊ぶ、当山派逆峰の矢鳥修験組織の活動拠点である。この鳥海山二合目にあたる木境は、鳥海山の遙拝所として、また矢鳥修験衆徒の行場として重要な役割を果たしてきた。

木境大物忌神社は、建長6年(1254)に鳥海山を祀る神霊を勧請し、矢鳥領の総鎮守として五穀豊穰、国家安穩を祈念した社であり、明治時代以前は「薬師堂」と呼ばれていた。また女人禁制であった藩政期においても、女性は木境の大物忌神社までは参拝できるものとされ、その関係から別名「女人堂」とも言われた。

嘉祥3年(850)に比良衛・多良衛の兄弟が開いたとされる矢鳥口登拝道は、「道者道」と呼ばれ、矢鳥町針ヶ岡の一合目「箸の王子」から、二合目「木境」、三合目「駒の王子」、四合目「善神」、五合目「祓川」を通り、山頂の大物忌神社に至る。その要路は、京都醍醐寺三宝院の役僧仁乗上人が、明徳2年(1391)に記したと伝えられる『鳥海山大権現縁起』に詳しく記されている。中でも指定地である、道者が道銭の寄進をした「道銭小屋跡」から、比良衛・多良衛の兄弟と薬師如来を祀る「開山神社」の境内を通り、矢鳥藩主が元禄10年(1697)に建立した「仁乗上人碑」に至る約800mの道者道は、往事の面影を良く残しており、山頂の大物忌神社と遙拝所である木境大物忌神社を結ぶ貴重な遺構である。

近世、木境周辺では春や秋の入峰や諸行事が一年を通じて行われていた。このうちの「虫除け祭り」は現在も7月8日に行われており、秋田県の無形民俗文化財に指定されている。

ほかにも木境周辺には「鳥海山大権現碑」など貴重な遺構が多く、鳥海山の宗教文化を代表する地である。

DATA

森子大物忌神社境内 面積:34,345.00㎡
所在地:秋田県由利本荘市森子字八乙女下98番1 外
木境大物忌神社境内と道者道 面積:59,962.66㎡
所在地:秋田県由利本荘市矢鳥町城内字木境3番3 外



秋田県にかほ市



金峰神社境内



金峰神社

きんぼう

金峰神社は鳥海山麓秋田県側、にかほ市象潟町の小滝集落にある。小滝集落は、登拝道の起点となる小滝口であり、修験者が数多く居住し、各地から来る道者（登拝者・参詣者）たちを世話し、鳥海山へ導く秋田県で唯一の宿坊集落であった。

金峰神社境内には小滝修験の行場でもあった奈曾の白瀑布（国指定名勝）があり、金峰神社社殿はその滝と直接対峙しているところにも特色がみえる。金峰神社に伝わる縁起によると、草創は天武9年（680）とされ、蔵王権現と鳥海山大権現を祀る。

現在の社殿は昭和53年に再建されたもので規模が大きい。境内にある記念碑（建立年不詳）や棟札に文化元年（1804）の象潟大地震で被災し、翌2年（1805）に再建されたということや、さらに万延元年（1860）に再建されたこと等が記されている。

小滝修験の最古の史料は、「小滝村居屋敷35軒中、（修験者が）院主（龍山寺）、常光坊、金蔵坊、宝泉坊、宝蔵坊」と記されている慶長17年（1612）の『最上検地帳』（個人蔵）であるが、金峰神社社殿には役小角が勧請したと伝えられる木造蔵王権現立像3軀（秋田県指定有形文化財〈彫刻〉）が安置され、さらに境内の宝物殿には慈覚大師作とされる丈六の木造観音菩薩立像（秋田県指定有形文化財〈彫刻〉）などが遺され、鳥海山信仰の拠点としての古さを物語っている。

そのほか宝物殿には、木造狛犬（秋田県指定有形文化財〈彫刻〉）、宝永6年（1709）に鑄造された鐘（にかほ市指定有形文化財〈工芸品〉）などが納められ、神社境内には慈覚大師が築いたとされる旧参道石坂、元亨2年（1322）の板碑、明和元年（1764）の青面金剛塔、享保16年（1731）の両国三十三所巡礼供養碑など数々の信仰遺物がみられる。

明治になり神仏分離令・修験禁止令が出されると、隆盛をみた小滝修験は復飾し、鳥海山大権現・蔵王権現は金峰神社とし

て再編され、戦後は宗教法人となった。現在、金峰神社の管理、維持は小滝集落全世帯（150戸）の金峰神社氏子が当たっている。

また、修験の影響を受けて独自に育まれた文化は、金峰神社の各神事や民俗芸能として現在も継承されている。1月1日の元旦祭にはじまり、1月5日の五日堂鎮火祭、1月7日の七日堂祭・祈年祭、6月第2土曜日の例祭、8月1日の鳥海山参り、11月23日の新嘗祭の年中祭事が行われ、6月の例祭では境内の土舞台で小滝のチョウクライロ舞（国指定重要無形民俗文化財）が奉奏される。また、盆には境内の郷土文化保存伝習館で鳥海山小滝番楽（秋田県指定無形民俗文化財）が行われている。これらの神社の舞楽等に関しては、小滝舞楽保存会を組織し伝承を図っている。



金峰神社境内宝物殿に安置されている木造観音菩薩立像

霊峰神社跡



霊峰神社跡

れいほう

霊峰神社は鳥海山山頂から北西にあたる標高743mの霊峰山に祀られてきた。その創祀は不明であるが、小滝龍山寺（祀職を金峰神社宮司が兼務し小滝修験学頭龍山寺が別当であった）に所蔵される「鳥海山霊峰神社由緒」（昭和33年（1958）記載）から現代まで社殿は遺り、周辺集落の登拝道の拠点であったことが伺われる。

鳥海山道者の参詣にあたって小滝口からは金峰神社～奈曾の白橋～拝み松～霊峰～鈴立～鳥ノ海～鳥海山大物忌神社となり、小滝口以外から登拝するときも必ず霊峰神社は通過したとされる。現在、同地には多くの石仏群や石積み等が遺され、鳥海山信仰における拝所等としての痕跡を留めている。

DATA

金峰神社境内 面積:20,356.59㎡
秋田県にかほ市象潟町小滝字奈曾沢1番 外
霊峰神社跡 面積:1,370,435.00㎡
秋田県にかほ市象潟町小滝字上山2番7 外



山形県遊佐町



鳥海山大物忌神社境内

鳥海山^{おおほのみ}大物忌神社は山頂に本殿が鎮座し、麓の吹浦と蕨岡に2つの口ノ宮がある。古代から現代まで変遷を経ながらも、山形県側における鳥海山信仰の最大の拠点を担ってきた。

遊佐町側の鳥海山中腹から山頂にかかる広大な山域と、麓の吹浦・蕨岡口ノ宮境内地、さらに、清流牛渡川^{うしわたりがわ}のほとりにたたずむ丸池を含むすべての社有地が史跡に指定されている。

鳥海山大物忌神社本殿



鳥海山大物忌神社本殿(鳥海山頂)

山形県遊佐町側の鳥海山中腹から山頂にかけては国有林を除いてすべて鳥海山大物忌神社の社有地である。史跡の範囲は、かつての登拝道にあたる五合目付近から山頂を含む鳥海山中の広大な範囲(約891ha)におよぶ。

山頂本殿は、夏期間(7-9月)神社職員が常駐し奉仕している。この間、多くの観光客が鳥海山を訪れ、神社が運営する山小屋では参拝者とともに多くの登山客を迎える。

登山道の要所には信仰に由来する地名や石祠が残り、いまなお信仰の山としての鳥海山を身近に感じることができる。

鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮



鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮本殿

吹浦口ノ宮は、遊佐町の北西部にあたる吹浦地域の中心部に位置する。神社周辺には、かつて二十五坊、三太夫があり、宿坊集落を形成していた。現在も街並みには門前町の名残を留めている。

参道を北に進み、境内の石段を登りきると、拝殿があり、その奥の一段高い位置に玉垣に囲われた大物忌神と月山神を祀った社殿の構えが見える。

かつて吹浦口ノ宮は、大物忌神と月山神の二柱を御祭神とし

て祀り、長らく両所宮(両所大菩薩)と称されていた。現在も二つの社殿が同じ造りで立ち並んでいるのはそのためである。

鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮



鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮本殿

蕨岡口ノ宮は遊佐町の南東部、蕨岡地域から見上げる天狗森丘陵の一角、上蕨岡に位置する。

上蕨岡は通称上寺と呼ばれ、かつて鳥海修験道が隆盛を極めたころは、三十三坊を有する宿坊集落であった。集落内には大泉坊長

屋門(国登録有形文化財<建造物>)などが現存し、その街並みにかつての姿を伺い知ることができる。

境内は集落のほぼ中央にあり、随神門(国登録有形文化財<建造物>)をくぐり参道をすすむと、ほどなく蕨岡口ノ宮本殿(国登録有形文化財<建造物>)が左手に見えてくる。当初は現在の場所からさらに約400段の石段を登った場所に建築されたが、昭和28年に現在の位置に移築された。

丸池

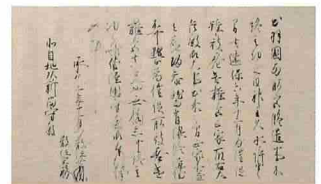
吹浦箕輪地区にある丸池は、鳥海山の湧水を水源とし、刻々と変わる水面の神秘的な姿が人々をひきつけてきた。

ほとりには丸池をご神体とする、鳥海山大物忌神社末社、丸池神社がある。池の近くには清流牛渡川^{うしわたりがわ}が流れ、秋には多くの鮭^{そじょう}が遡上する光景がみられる。また、周辺には小山崎遺跡^{こやまさき}、柴燈林遺跡^{ちやうぼやし}など縄文時代の貴重な遺跡群が点在する。

鳥海山大物忌神社の祭礼には物忌祭(2月・11月)、管粥神事(正月)、御浜出神事(7月)、蕨岡口ノ宮・吹浦口ノ宮例大祭(5月)などがある。

両口ノ宮の例大祭では、蕨岡延年(山形県指定無形民俗文化財)や吹浦田楽(山形県指定無形民俗文化財)が奉納される。

また、かつて鳥海山二之王子といわれた杉沢熊野神社では修験者が伝えたといわれる杉沢比山(国指定無形民俗文化財)が伝えられ、毎年8月6日、15日、20日の3晩、杉沢熊野神社境内にて奉納されている。



鳥海山大物忌神社文書(国指定重要文化財)〔鎌倉幕府奉行人連書奉書〕右図「北畠顯信寄進状」左図

鳥海山大物忌神社文書(国指定重要文化財)は、庄内地方最古の部類に入る古文書であり、吹浦口ノ宮の前身である両所宮(両所大菩薩)と当時の中央権力、有力者との関係を伝える。

DATA

大物忌神社境内 面積:9,172,977.93㎡
山形県飽海郡遊佐町吹浦字布倉1番1 外

鳥海山は古くは北の山、^{あくみだけ}飽海岳等と呼ばれていた。暦応5年(1342)に寄進された^{かづら}鱧口に鳥海山の銘が初めて現れる。

鱧口(山形県指定有形文化財)



史跡【鳥海山】概要

秋田県と山形県の県境に位置する大型成層火山の鳥海山は、標高2,236mの独立峰として東北で最も高い山である。その雄姿と度重なる火山活動が、不安定な治安と重なって古代から神階奉授が繰り返され、大物忌神として崇拝されてきた信仰の山である。古代には国家の守護神として、中世には出羽国の中心的な信仰の山として崇敬され、近世にはさらに農業神として崇拝された結果、^{おぼ}畏れられながらも、一方では「出羽の富士」として親しまれ、人々の生活や精神的な支えとして重要な位置を占めてきた。

特に中世には修験道の霊場としてその地位を確立し、近世には独自の鳥海山信仰を推し進めた。鳥海山を取り巻く各地には、修験衆徒がそれぞれ活動拠点を立てて登拝口とし、独自の登拝道(道者道)を確立している。その活動の拠点が、吹浦・蕨岡(山形県飽海郡遊佐町)、小滝・院内(秋田県にかほ市)、滝沢・矢島(秋田県由利本荘市)である。これら各修験衆徒は、それぞれ自らの正当性を主張して争いを重ねてきた。中でも、矢島修験と蕨岡修験との山頂社殿をめぐる論争が、藩境問題にまで発展し、現在の県境に反映されていることは、広く知られているところである。

このように、これら鳥海山修験衆徒の活動拠点である各登拝口や登拝道は、鳥海山の文化遺産を代表するものであり、鳥海山の宗教・文化・信仰の実態を知るうえで極めて重要である。

指 定：平成21年7月23日

構 成：鳥海山大物忌神社本殿(山形県遊佐町)

鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮(山形県遊佐町)

鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮(山形県遊佐町)

丸池(山形県遊佐町)

金峰神社境内(秋田県にかほ市)

霊峰神社跡(秋田県にかほ市)

森子大物忌神社境内(秋田県由利本荘市)

木境大物忌神社境内と道者道(秋田県由利本荘市)

総面積：10,658,077.18㎡



森子大物忌神社境内

滝沢



森子大物忌神社 例大祭
4月第3日曜日

鳥海山福王寺 ● **矢島**

木境大物忌神社境内と道者道



木境大物忌神社「虫除け祭り」
7月8日

小滝 ● **金峰神社境内**



金峰神社 例大祭
「小滝のチョウクライロ舞」
6月第2土曜日

霊峰神社跡

鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落
及び新山溶岩流末端崖と湧水群
(国天然記念物)

鳥海山大物忌神社境内



鳥海山大物忌神社本殿

鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮



鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮
例大祭「吹浦田楽」
5月4日・5日

鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮



鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮
例大祭「蕨岡延年」
5月3日

史跡【鳥海山】指定地

鳥海山修験の活動拠点

由利本荘市教育委員会 文化課
〒015-0801
秋田県由利本荘市美倉町27番地2
TEL 0184-24-6288 FAX 0184-23-6622
bunka@city.yurihonjo.akita.jp

にかほ市教育委員会 文化財保護課
〒018-0104
秋田県にかほ市象潟町字狐森31-1
TEL 0184-43-2005 FAX 0184-43-2014
kyouiku-bh@city.nikaho.lg.jp

遊佐町教育委員会 生涯学習係
〒999-8301
山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211
TEL 0234-72-5892 FAX 0234-72-3314
gakushu@town.yuza.yamagata.jp